

シェア・インターナショナル ニュース

さまようアメリカ

【長年にわたってシェア・インターナショナル誌は智慧の覚者からの記事を毎月掲載してきた。覚者はしばしば、神秘的あるいは現実離れしたものではなく人類が直面する今の問題について語っておられる。彼の最新の記事「さまようアメリカ」は、アメリカの選挙の結果について分析し、アメリカの国民が直面するであろう将来の困難に洞察をあたえている。彼は世界の力の均衡が深い変化を受けようとしていることを示し、「世界はアメリカの富と力の支配から離れて、その定めを全うする別の道へと向かおうとしている」と説明する。

その次の記事で、ベンジャミン・クレームは最近死去したヤセル・アラファト氏を追悼し、さらにアメリカの選挙とその他の世界の問題についての質問に答えている】

アメリカ合衆国の国民が、自分たちが重大な間違いを犯したことに気づくのは時間の問題だろう。彼らは、国内においても国際的にも分割と憎しみをつくり出すことに専念する男と行政政府を、多数の盗み取られた票の助けを借りてではあるが、復権させてしまった。

彼らの誇らしい様々な自由が侵害されていくのを後悔しながら見守るだろう。政府が、必要から巨大な負債に取り組もうとするにつれて、彼らの生活水準の急速な降下を見るだろう。彼らの通貨に対する自信の喪失と、彼らの伝統的な取引のパートナーとの貿易の急激な逆転を目撃するだろう。イラクへの多難な侵略は、イラク国内および世界の他の地域で悪影響を及ぼし続けるだろう。この政府が世界中に引き起こした恐怖と憎しみに反応して、国民の傾向は、内に目を向けることであり、そしてより一層きっぱりと世界に背を向けるだろう。

イリュージョン（錯覚）

この政府に対処するにあたっての大きな問題は、それが強力なイリュージョン（錯覚）のもとで働いていることである——すなわちそれは、神に鼓舞されており、神の恩寵のもとでキリスト教の世界とメッセージをその昔の力と栄光に復興させるのを助けるという錯覚である。

かくしてアメリカは大きく後戻りして、世界の大多数が抱く本当の関心事——環境汚染と差し迫る災害の緊張のもとで苦悩する惑星の要求——から、おのれ自身を孤立させた。

世界は静止していないことをアメリカは発見するだろう。アメリカの協力があろうがなかろうが、諸国家は、われわれを取り囲む多くの生態問題や社会問題に取り組むためにできる限りのことをなしていくだろう。それらの問題は本当に緊急に対処されなければならないのである。アメリカは自分たちが取り残され、無視されることを発見するだろう。そうなってのみ、アメリカは‘先導’するための用意ができるだろう。

美辞麗句

この政府は、今でさえも、その勝利を味わいながら、次の行動の賛否をはかりにかけている。意に反してイラクにおける出来事に不意打ちをくらって、政府はさらなる暴力を考慮する前にしばし小休止しなければならない。しかし、脅しだけで、弱いものをいじめ、征服することを期待して、その虚勢と美辞麗句は疑いもなく続くだろう。他方、多数の国々に大きな変化が起こっており、それは世界の力のバランスの深遠な変化につながる。中国とインド、南アメリカとロシアは彼らの足どりと経済的な潜在力を見いだしている。アフリカは、やっと強力な政府や機関の関心と善意を受けはじめており、よりよい時が来るのを期待することができる。

かようにして、世界はアメリカの力と富の支配から離れていき、そしてそのさだめを成就するために他の行路の計画を立てている。

もしアメリカがその一方的な行動をとる権利を主張し続けるならば、国際的な計画やプロジェクトにおいて無視され、放っておかれ、その経済はさらに衰え、その国民は政府の行動に自信と信頼を失うだろう。友だちもなく、衰えていく力の前に、政府は変わることを強いらられるだろう、そして以前の友好国との対話を再開するだろう。

マイトレーヤの出現はこの変容の過程を速め、そしてその歓迎すべき完了を保証するだろう。

(シェア・インターナショナル 2004.12月号より)

ヤセル・アラファト (1929–2004) 氏の死を悼む

ベンジャミン・クレーム



ヤセル・アラファト氏

この時代の偉大な人物でありながら、敵から迫害を受け、味方にすら誤解を受けた人物が死去した。彼はビジョンと、飛切りの勇気と、楽観性で半世紀にわたってパレスチナの抑圧された民族にとってインスピレーションとなり、父親的な存在であり続けた。

彼は何十年もの間、シャロン氏の宿怨の標的であった。またイスラエルのプロパガンダ・マシーンに平和のチャンスに対するあらゆる失策、拙さ、過ちを彼のせいにし非難してきた。泥をかぶらされて、長年の味方からすらも“傷を持つ大統領”と見なされてきた。

彼は決してそのような人物ではない。彼は、ヨルダンの故フセイン国王同様、1990年4月にロンドンで開かれた3日間のマイトレーヤ主催の会議に招待された列席者の一人であった。それ以来、マイトレーヤの直接的なインスピレーションと指導の下で働いてきた。マイトレーヤは、繰り返し繰り返し、彼に不公正な協定には同意しないようにと助言した。提案された協定はすべて不公平なもので、不公正であるがゆえに長続きはしなかっただろう。

2002年5月の本誌に掲載された私の師である覚者からの記事をここに引用する。

「……他方、イスラエルは自爆行為に悩まされて、『テロリズムに対する戦い』という言い訳を利用して、いつもの如く過剰反応する。アラファト氏に対する恥知らずな迫害と屈辱的な行為の中に、イスラエルの指導者と軍隊は何も誇るべきものはない。イスラエルの国民は、他の誰よりも、抑圧された人々の苦悩を理解すべきである」

ベンジャミン・クレームは答えます

ヤセル・アラファト

Q ヤセル・アラファト (1929–2004)、パレスチナ自治政府大統領、の光線構造と進化の段階を教えてください。

A 魂6、パーソナリティ:4 (6)、メンタル体:1 (4) アストラル体:6 (6)、肉体:3 (7)。進化段階:2.4
霊的発達度の観点からすれば、ヤセル・アラファト氏はジョン・F. ケネディ元米国大統領 (2.4 段階) と同じレベルであり、マハトマ・ガンジー (2.0 段階) よりも高位の方でした。

Q アラファト氏は毒殺されたのですか。(2004/12)

A いいえ、彼は胸が張り裂けるような悲痛な思いのために死んだのです。

Q ヤセル・アラファト氏が、イスラエルのエド・バラク元大統領によって提案された和平案を受け入れなかったのは愚かなことでしたか。(2003/3)

A いいえ。それは公正な案ではありませんでした。バ

ラク氏はパレスチナがヨルダン川西岸地域の90%以上を提供されていると主張しましたが、実際には、ヨルダン川西岸地域の42%にガザ地区を加えたものを与えすぎません。そうであってさえ、ヨルダン川西岸地域にはイスラエルの施設がたくさんあり、それがイスラエルの守備隊によって警備されています。施設を結ぶ道のためにイスラエル軍は迅速に交流でき、いわゆるパレスチナをそれぞれ隔離された地区に分断しています。その案は「非常に寛大なもの」、「あまりに寛大すぎる」とイスラエルのプロパガンダ・マシーンによって喧伝されましたが、実際には正義の戯画でしかありません。

Q アラファト議長は拘束の間も意気盛んであったと伝えられています。彼の医師が彼を訪れ、彼のような高齢にあって、とてつもないストレスにもかかわらず、彼の健康状態は良好だと宣言しました。(1) マイトレーヤは、議長や司令部に囚われた同僚たちを特別に保護する祝福を与えましたか。(2) マイトレーヤは、1988年以来アラファト議長と交流していますか。(3) マイトレーヤは最近、議長の前に姿を現されましたか。(2002/6)

A (1) はい。(2) はい。(3) はい。

パレスチナ

Q メディアの多くは、シャロン首相のガザ「撤退」政策は平和に向けた真の動きであると信じているようです。コメントをいただけますか。(2004/12)

A 私はそうは考えません。ガザから移住する8,000人のイスラエル人は、パレスチナ人の祖国であるべきヨルダン川西岸地域における何十万もの膨大なイスラエル人の継続的な居留との取引の「見返り」とみなされています。いまや、パレスチナ人の居住可能な地として残されたのはほんのわずかな部分のみであり、イスラエルの施設の建物の縁にさえ足を踏み入れられません。

もう一つのアメリカの不正な選挙

Q (1) アメリカ大統領選挙の最終的な結果は投票者の選択を正確に反映していましたか。それとも (2) 結果を変えるような不正や操作があったのですか。もしそうだとすれば、(3) どちらの側がより多く不正を行いましたか。(4) 結果が操作されたのだとすれば、どんな方法によってなされたのですか。(2004/12)

A (1) いいえ。私の情報では多くの不正が行われました。(2) はい、ケリー氏は僅差でオハイオ州とフロリダ州を獲得し、大統領になっているはずでした。前回と同じような不正がなされ、今回はより巧妙に行われたのだと思います。(3) 共和党です。民主党による不正は最小限で個人的に行われたものだけでしたが、共和党による不正は計画的で広範囲なものでした。特に新しい電子投票装置についてはそうでした。(4) 電子投票システムにあらかじめ組み込まれたプログラムや他のさまざまな方法です。より粗雑ではあるが効果的な方法——郵送投票の遅配、二重投票、票を数えないこと、などです。もちろんフロリダ州やオハイオ州のような接戦の(揺れ動く)州にターゲットが絞られ、機械はケリー氏の5票のうち1票がブッシュ氏の票になるようプログラムされていました。しかしながら、「盗まれた」票を除外しても、実際にブッシュ氏は、前回のゴア氏のように、総得票数(民主的な世論の記録としては私はこちらの方を好みますが)では決定的にケリー氏を上回っていました。

Q アメリカの非常に疑わしい選挙結果から見て、あなたの師はどのくらいの民主党の票が何らかの方法で不法に妨害されたと言われますか。(2004/12)

A 2.5%です。

Q アメリカ選挙の結果はアメリカと海外の両方で、これまでよりも社会を両極化させましたか。(2004/12)

A はい、しばらくの間はそうでしょう。しかし徐々に、比較の間もなく、マイトレーヤの関与とエネルギー、とりわけ平和平衡の霊のエネルギーが、その存在をより強く感じさせ、予期せぬ歓迎すべき変化が世界中で起こるでしょう。今回のことは世の終わりではありません。

Q オサマ・ビンラディン氏がまさにあのタイミングでビデオを送ったのは、ブッシュ氏をホワイトハウスに留めることが彼の目的にかなうからでしょうか。(2004/12)

A はい。

イラク

Q 『ザ・ランセット』という英国の医学雑誌に発表された、ジョン・ホプキンス・ブルームバーグ公共保健研究所(バルチモア、アメリカ)による調査は、2003年3月の米英軍によるイラク侵略以来、イラク市民の死者数が極度に増加していることを示しています。死者の大半は女性と子供で、多くは暴力の結果——大多数は連合軍の空爆で死んでいます。その研究では、戦争による市民の死者数は10万人と見積られています。しかし英国の外務大臣ジャック・ストロー氏は市民の死者を1万人と見積り、英国の『イラクボディカウント』は14,000人から16,000人の間と見積っています。『シェア・インターナショナル』誌9月号では、2004年6月29日の時点で25,000人という数字が与えられました。(1) アメリカの調査による現在の10万人という数字は正確ですか。(2) その調査方法は信頼の置けるものですか。(2004/12)

A (1) かなり正確です。私の情報では、現在までに88,000人の市民がイラクで殺されました。(2) はい、調査方法は可能な限り最も正確ですが、イラクの大部分のうち350カ所の小さなセンターしかカバーしていません。安全に調査できるさらに多くのセンターを加えれば、もっと正確になるでしょう。

南アメリカ

Q 南アメリカは、アメリカとは違って、三人の左翼指導者の選出に成功しました。これは南アメリカ全体にとって、真に有益な協力と社会改革と生活水準の改善における新しい章につながるのですか。(2004/12)

A はい。アメリカでの出来事とはまったく別のところで、南アメリカや他の地域で深遠な変化が起こっており、それはこれからも続くでしょう。これらのことが、アメ

リカによる「自由世界のリーダーシップ」ということの意味と外見を変化させるでしょう。アメリカはますます古い問題に古いやり方で取り組むだけのように見られるでしょう。急速に変化する世界の中でアメリカが変化への挑戦を把握しない限り、アメリカは自国で肯定的な変化を経験している国々から敬遠され取り残されるでしょう。そのためにアメリカは孤立し、強力ではあるが無力な存在となるでしょう。

◆ シェア・インターナショナル背景情報

画家、著作家、講演者である英国人ベンジャミン・クレームは、過去30年近く、史上最大の出来事——世界教師マイトレーヤと彼の一団の出現——のために道を整えてきた。世界中の何百万という人々が彼の情報に触れ、この途方もない出来事を期待を込めて待っている。

1977年7月19日より、マイトレーヤはロンドンのアジア人居住地に住み、徐々に公に姿を現しつつある。あらゆる宗教によって異なる名前で長い間待ち望まれてきたマイトレーヤは、宗教をもつ人にももたない人にも、すべての人々にとっての世界教師である。

マイトレーヤの「移動大使」であるベンジャミン・クレームは、この希望のメッセージを広めるために世界中を回って、マイトレーヤの顕現に対する期待の風潮をつくっている。長年にわたって、彼自身の師である覚者によって訓練監督され、師と常時、思念伝達による接触を保っているため、クレームはマイトレーヤの出現に関する最新の情報をいつでも入手することができ、それが懐疑的な世界に対してこの話を提供するのに必要な完全な確信を彼に与えている。

今日の問題に関心をもつ現代人として、マイトレーヤは変化する世界の背後で働いている。彼が世界に放出している途方もないエネルギーが多くの局面での劇的展開を引き起こす刺激となっている。例えば、冷戦の終結、ドイツの統一、南アフリカでのアパルトヘイトの終焉、自由と正義を要求して増大する民衆の声の力、環境保護に対する世界的な注目がある。

マイトレーヤはあらゆる分野の強力な指導者と実際に会っており、彼らに今日の差し迫った問題に対する解決法を提供してきた。彼のメッセージを要約するならば、「分かち合って世界を救いなさい」である。マイトレーヤは新しい宗教を創設するために来たのではなく、広義の意味の教師としてやって来た。人類が自分たちを一つの家族として見るように鼓舞し、分かち合いと経済的社会的正義と世界的な協力に基づく文明をつくるように鼓舞している。

彼の到来の徴を求める者に対しては、マイトレーヤは世界中に奇跡を現している。それらは何百万という人々の心の琴線に触れ、彼らを間もなく起こる彼の出現に向けて備えさせている。

マイトレーヤと彼の率いる一団が世界で公に働き、彼らの指導と教えを提供するので、人類はその生存が保証されるのみならず、輝かしい新しい文明の創造についても保証されている。

ベンジャミン・クレームによれば、われわれがマイトレーヤを見るまでに長く待つ必要はないという。間もなく、彼はアメリカの主要テレビのインタビューを受け、彼の公然たる出現が始まるだろう。

クレームは定期的に世界中で講演を行っており、またテレビやラジオにも出演している。アメリカだけでも300以上のテレビやラジオの番組のインタビューを受けた。彼の著書は現在10冊になるが、それらは11カ国語に翻訳されている。また、彼は世界70余カ国で購読されている国際月刊誌『シェア・インターナショナル』誌の編集長を勤めている。これらの仕事に対して彼は一切金銭的報酬を受け取らない。

2005年 ベンジャミン・クレーム講演会			
日比谷公会堂	5月14日(土) PM2:00～	大阪厚生年金会館 芸術ホール	5月21日(土) PM2:00～
		名古屋市民会館	5月24日(火) PM5:30～